



# Documentum Content Server 用 Kofax イ クスポート コネクタ 管理者ガイド

バージョン: 8.2.0

日付: 2024-02-27

**KOFAX**

© 2013-2023 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

# 目次

管理者ガイド.....	4
概要.....	4
機能.....	4
製品ドキュメント.....	5
トレーニング.....	7
Kofax 製品のヘルプの入手.....	7
システム要件.....	8
サーバーにおける DFS の必要性.....	8
エクスポート コネクタのインストール.....	8
エクスポート コネクタの削除.....	9
エクスポート コネクタの修復.....	11
エクスポート コネクタのセットアップ.....	11
Kofax Capture を使用したエクスポート コネクタの設定.....	11
Kofax TotalAgility を使用したエクスポート コネクタのインストールと設定.....	12
Kofax Express を使用したエクスポート コネクタの設定.....	13
eDocument のエクスポート.....	14
キャビネット/フォルダへの保存.....	14
バーチャル ドキュメントへの保存.....	16
eDocument のみのエクスポート (イメージ ファイルは含まない).....	18
Kofax Capture OCR Full Text オプション.....	18
サポートされていない Kofax Capture 機能.....	19
SecurityBoost.....	19
ファイル名の保持.....	19

# 管理者ガイド

このドキュメントでは、ドキュメントイメージ、OCR Full Text ファイル、PDF ドキュメント、eDocument、およびインデックス データを Documentum Server リポジトリにエクスポートする機能を備えた Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ のインストールと構成について説明します。

## 概要

Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ では、バッチはエクスポート設定に基づいて処理されます。ドキュメントとインデックス データは、エクスポートのセットアップ中に定義された設定に基づいて、リポジトリにエクスポートされます。

マルチユーザー インストールでは、エクスポート プロセスは通常、無人のワークステーションで実行され、定期的に使用可能なバッチをポーリングします。Kofax Capture、Kofax TotalAgility、Kofax Express、またはネットワーク システムのパフォーマンスへの影響を回避するために、営業時間外に実行するようにプロセスを構成できます。

## 機能

このセクションでは、エクスポート コネクタの主な機能について説明します。

### フォルダ数の制限

セットアップ構成ファイルを使用すると、サーバーから取得される Documentum Server フォルダの数を制限できます。この制限は、非常に大量のフォルダがサーバー上にある場合に役立ちます。

取得するフォルダの数を制限するには、インストール フォルダ内の SetupConfig.xml を使用して、LimitedFolderQueryNumber フィールドの値を整数値に設定します。たとえば、50 個のフォルダを取得するには、値を 50 に設定します。

```
<?xml version="1.0"?>
<Config xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
<LimitedFolderQueryNumber>50</LimitedFolderQueryNumber>
</Config>
```

## Kofax の値/Documentum Content Server のプロパティ

このエクスポート コネクタには、Kofax の値をドキュメント プロパティおよびフォルダ プロパティにリンクするための使いやすいインターフェイスが用意されています。Kofax の値の例としては、ドキュメントインデックス フィールド、フォルダ インデックス フィールド、バッチ フィールド、テキスト定数などがあります。

## イメージのサポート

このエクスポート コネクタは、次のファイル形式/圧縮形式をサポートしています。

- グループ 3、グループ 3/2D、およびグループ 4 圧縮によるマルチページ TIFF
- マルチページ TIFF - 未圧縮イメージ フォーマット
- JPEG 圧縮によるマルチページ TIFF
- Kofax PDF

## Kofax PDF のサポート

Kofax PDF ドキュメントを Documentum Server リポジトリにエクスポートできます。Kofax PDF は Kofax Capture または Kofax Express に付属しているため、追加のソフトウェア実装は必要ありません。Kofax PDF ドキュメントは、次の形式の出力で保存できます。

- イメージのみ
- イメージとテキスト

## OCR Full Text のサポート

Kofax Capture OCR Full Text モジュールで処理されたドキュメントを Documentum Content Server リポジトリにエクスポートできます。

## eDocument のサポート

バッチをイメージ ファイルに限定する必要はありません。eDocument を Documentum Content Server にエクスポートすることができます。

## 製品ドキュメント

Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ ドキュメント セットは、次の URL からオンラインで入手できます。<sup>1</sup>

[https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KEC\\_Documentum/8.2.0-qia1ime9gg/  
KEC\\_Documentum.htm](https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KEC_Documentum/8.2.0-qia1ime9gg/KEC_Documentum.htm)

完全なドキュメント セットには、次の項目が含まれています。

---

<sup>1</sup> オンラインで完全なドキュメント セットにアクセスするには、インターネットに接続する必要があります。インターネットに接続されていない場合のアクセスについては、「オフライン ドキュメント」を参照してください。

### **Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ リリース ノート**

他の製品ドキュメントには含まれない最新の製品情報が含まれています。

### **Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ技術仕様書**

サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

### **Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ管理者ガイド**

Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタのインストール、構成、保守を担当する管理者向けの情報が含まれています。

### **Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ ヘルプ**

Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタのセットアップに必要な構成設定について説明します。

## オフラインドキュメント

ドキュメントをオフライン モードで使用できるようにするには、[Kofax フルフィルメント サイト](#)からダウンロードした Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0 製品パッケージからドキュメントファイルを取得します。製品パッケージには、オフラインで使用するための、次のドキュメント ファイルが含まれています。

- KofaxExportConnectorDocumentation\_8.2.0\_forDocumentumContentServer\_EN.zip  
製品ドキュメント セット全体 (英語版) が含まれています。
- KofaxExportConnectorDocumentation\_8.2.0\_forDocumentumContentServer\_JA.zip  
製品ドキュメント セット全体 (日本語版) が含まれています。

.zip ファイルには、言語ごとに 2 つのフォルダが含まれています。

- **print** フォルダ: 『Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ管理者ガイド』が含まれています
- **ヘルプ** フォルダ: 『Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ ヘルプ』が含まれています

1. Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0 をインストールした後、製品のインストール フォルダに **Documentation** という名前のフォルダを作成します。
2. 新しく作成した **Documentation** フォルダ内に、必要な言語の言語コード フォルダを作成します。
  - 英語の場合は、**EN** という名前のフォルダを作成します
  - 日本語の場合は、**JA** という名前のフォルダを作成します
3. 必要な言語のドキュメント圧縮ファイルの内容を、次の場所に抽出します。
  - Kofax Capture の場合:  
[ドライブ:] \Program Files (x86) \Kofax\Capture\ServLib\Bin  
\Kofax.Documentum.8\Documentation\[言語コード フォルダ] または

[ドライブ:] \Program Files (x86) \Kofax\CaptureSS\ServLib\Bin  
\Kofax.Documentum.8\Documentation\[言語コード フォルダ]

- Kofax TotalAgility の場合:

[ドライブ:] \Program Files (x86) \Kofax\TotalAgility\ExportConnectors\bin  
\Kofax.Documentum.8\Documentation\[言語コード フォルダ]

- Kofax Express の場合:

[ドライブ:] \Program Files (x86) \Kofax\Kofax Express\bin  
\Kofax.Documentum.8\Documentation\[言語コード フォルダ]

**i** 製品をアンインストールした場合、Documentation フォルダは自動的に削除されないため、手動で削除する必要があります。

4. Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ アプリケーションを起動し、ヘルプアイコンをクリックして、別のブラウザ ウィンドウでヘルプを開きます。

PDF ドキュメントをオフラインで使用するには、**Documentation** フォルダまたはコンピュータの別の場所にドキュメントを保管します。ヘルプ フォルダは常に **Documentation** フォルダ内に残しておく必要があります。これらの指示に従ってオフライン ドキュメントをインストールすると、アクティブなインターネット接続が存在している場合でも、製品ドキュメントのオフライン バージョンがデフォルトで使用されるようになります。

## トレーニング

Kofax では、Kofax ソリューションを最大限に活用するために役立つクラスルームおよびコンピュータベースのトレーニングを用意しています。利用可能なトレーニング オプションとスケジュールの詳細を確認するには、[Kofax Education Web サイト](#)にアクセスしてください。

## Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

**i** [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
- [**Search (検索)**] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリを選択するか、[View All Products (すべての製品を表示)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ)へのアクセス (全カスタマー)。  
[Resources (リソース)] メニューで、[Community (コミュニティ)] リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル)へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。  
[\[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)\]](#) ページに移動し、[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)] をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル)へのアクセス (一部のパートナーのみ)。  
[\[Support Portal Information\]](#) ページに移動し、[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)] をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフ サービス ツールへのアクセス。  
[\[Support Details \(サポートの詳細\)\]](#) ページに移動し、適切な記事を選択します。

## システム要件

システム要件および他の製品への依存関係に関する主な情報源は、「[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ ドキュメント](#)」ページにある[技術仕様](#)ドキュメントです。この技術仕様ドキュメントは定期的に更新されます。エクスポート コネクタ製品を適切に使用するするために内容をよくご確認ください。

### サーバーにおける DFS の必要性

このバージョンのエクスポート コネクタと一緒に、Documentum Foundation Services (DFS) をサーバーにインストールする必要があります。この要件は、エクスポート先のコンピュータには適用されません。

サーバーで DFS Web サービスが実行されていること、およびサービス エンドポイントに正しいアドレスとポートが指定されていることを確認してください。詳細については、Documentum のドキュメントを参照してください。

## エクスポート コネクタのインストール

クライアントまたはスタンドアロン ワークステーションにエクスポート コネクタをインストールできます。

エクスポート コネクタを正常にインストールするには、Windows 管理者権限が必要であり、ユーザー アカウント制御 (UAC) をオフにする必要があります。

Kofax ソフトウェアと Documentum Server コンポーネントを別々のコンピュータにインストールする必要があります。両方のコンポーネントを同じコンピュータにインストールすると、Documentum Server コンポーネントと DocBroker の間の通信が失敗します。

**i** Kofax TotalAgility で使用するためにエクスポート コネクタをインストールするには、このセクションの手順を無視して、[Kofax TotalAgility を使用したエクスポート コネクタのインストールと設定](#) の指示に従います。

1. 以前のバージョンの Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ が現在インストールされている場合は、次のいずれかを実行します。
  - **バージョン 8.0.0 以前:** 次の手順に進む前に、参照できるように現在の設定を書き留め、エクスポート コネクタをアンインストールします。
  - **バージョン 8.1.0:** 次のステップに進みます。
2. インストール メディアで、[setup.msi] を見つけて実行します。  
インストール ウィザードが表示されます。

**i** Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.1.0 が検出された場合は、最新バージョンにアップグレードするように求められます。[OK] をクリックすると、アップグレードが実行され、バージョン 8.2.0 で使用できるように既存のエクスポート コネクタの設定が保持されます。

3. [次へ] をクリックし、画面の指示に従ってエクスポート コネクタをインストールします。
4. インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。
5. エクスポート コネクタを使用する予定のすべてのワークステーションでインストール手順を繰り返します。

エクスポート コネクタが自動的に Kofax Capture または Kofax Express に登録されます。

**i** Kofax Capture および Kofax Express を同じワークステーションで使用する予定がある場合、詳細については、Kofax Express インストール ガイド を参照してください。

## エクスポート コネクタの削除

以下の手順を使用して、[Kofax Capture](#)、[Kofax TotalAgility](#)、または [Kofax Express](#) からエクスポート コネクタを削除し、次にコンピューターからエクスポート コネクタを削除します。必要に応じて、エクスポート コネクタを[修復](#)することもできます。

### Kofax Capture からのエクスポート コネクタの削除

コンピューターからエクスポート コネクタを削除する前に、Kofax Capture からエクスポート コネクタを削除します。

### バッチ クラスからのエクスポート コネクタの削除

1. Kofax Capture [管理] モジュールの [バッチ] タブで、バッチ クラスを展開して、関連するドキュメント クラスを表示します。

2. 該当するドキュメント クラスを右クリックし、[エクスポート コネクタ] を選択します。
3. [割り当て済みエクスポート コネクタ] リストでエクスポート コネクタを選択し、[削除] をクリックします。

### エクスポート コネクタ マネージャ からのエクスポート コネクタの削除

1. Kofax Capture 管理モジュールの [ツール] タブにある [システム] グループで、[エクスポート コネクタ] をクリックします。
2. [エクスポート コネクタ マネージャ] ウィンドウでエクスポート コネクタを選択し、[削除] をクリックします。

### Kofax TotalAgility からのエクスポート コネクタの削除

コンピュータからエクスポート コネクタを削除する前に、[Kofax TotalAgility エクスポート コネクタの構成] ユーティリティを使用して、関連するドキュメント タイプとプロセスから割り当てを解除します。

1. [Kofax TotalAgility] プログラム フォルダで、[Kofax エクスポート コネクタ] を選択します。  
[Kofax TotalAgility エクスポート コネクタの構成] ユーティリティが表示されます。
2. [エクスポート コネクタの構成] 画面で、[セットアップ] をクリックします。
3. 次の画面の [割り当て済みエクスポート コネクタ] リストで、エクスポート コネクタの名前を選択し、[削除] をクリックしてから、[保存] をクリックします。  
ドキュメント タイプがエクスポート コネクタから割り当て解除されます。
4. [エクスポート コネクタ - セットアップ] 画面の [プロセスを選択] リストで、コネクタとともにエクスポートされたドキュメント タイプに関連付けられているプロセスを選択します。
5. [割り当て済みのドキュメント タイプ] リストで、選択したプロセスに割り当てられたドキュメント タイプを選択し、[削除]、[保存]、[閉じる] の順にクリックします。  
ドキュメント タイプからプロセスの割り当てが解除されます。
6. [エクスポート コネクタの構成] 画面で、[管理] をクリックします。
7. エクスポート コネクタ名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてから、[閉じる] をクリックします。

### Kofax Express からのエクスポート コネクタの削除

コンピュータからエクスポート コネクタを削除する前に、Kofax Express から削除します。

#### ジョブからのエクスポート コネクタの削除

1. [ジョブ設定] タブの [エクスポート] グループで、コネクタが未処理のジョブに関連付けられていないことを確認します。
2. 必要に応じて、未処理のジョブに別のコネクタを割り当てます。

#### エクスポート コネクタの登録の削除

1. エクスポート コネクタを必要とするすべてのジョブの処理が完了したことを確認します。既存のジョブに割り当て済みのコネクタは登録解除できません。
2. Kofax メニューで、[オプション] をクリックします。  
[オプション] ウィンドウが表示されます。

3. [オプション] ウィンドウで、[エクスポート コネクタ] をクリックします。
4. [エクスポート コネクタ] リストで、登録を解除するコネクタの名前を選択し、[削除] をクリックします。  
[エクスポート コネクタ] リストが更新され、エクスポート コネクタは Kofax Express で使用できなくなります。

## コンピュータからのエクスポート コネクタの削除

コンピューターからエクスポート コネクタを削除する前に、必要に応じて、[Kofax Capture](#)、[Kofax TotalAgility](#)、および [Kofax Express](#) を削除してください。

[コントロール パネル] のオプションを使用してエクスポート コネクタを削除するか、次の手順に従います。

1. エクスポート コネクタのインストールに使用した .msi ファイルを実行します。  
既存のインストールが検出されると、[プログラムの保守] ウィンドウが表示されます。
2. [削除] を選択してから、[次へ] をクリックします。
3. 画面の指示に従って、エクスポート コネクタを削除します。  
削除が完了すると、エクスポート コネクタが正常に削除されたことを示すメッセージが表示されます。

## エクスポート コネクタの修復

修復プロセスを使用して、欠落したエクスポート コネクタ ファイルや名前変更または削除されたエクスポート コネクタ ファイルを置き換えることができます。

1. エクスポート コネクタのインストールに使用した .msi ファイルを実行します。  
既存のインストールが検出されると、[プログラムの保守] ウィンドウが表示されます。
2. [修復] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. 画面の指示に従って、エクスポート コネクタを修復します。  
完了すると、エクスポート コネクタが正常に修復されたことを示すメッセージが表示されます。

## エクスポート コネクタのセットアップ

このセクションでは、Kofax Capture、Kofax TotalAgility、またはKofax Express で使用するエクスポート コネクタを設定する手順について説明します。

### Kofax Capture を使用したエクスポート コネクタの設定

この手順を使用して、Kofax Capture で使用する Documentum エクスポート コネクタをインストールし、セットアップします。

1. Kofax Capture [管理] モジュールを開始します。
2. [定義] パネルで、[バッチ] タブをクリックします。

3. バッチ クラスを選択して展開し、関連するドキュメント クラスを表示します。
4. 該当するドキュメント クラスを右クリックしてコンテキスト メニューを開き、[エクスポート コネクタ] をクリックします。  
[エクスポート コネクタ] ウィンドウが表示されます。
5. [使用可能なエクスポート コネクタ] リストで、[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0] を選択し、[追加]。  
ログイン ウィンドウが表示されます。
6. DFS Web サービスがインストールされているサーバーのサイト URL と、ユーザー名、パスワード、およびリポジトリ名を入力します。  
サイト URL の例:  

```
http://servername:port/dfs
http://servername:port/my-dfs-71
```

servername:port などの他の形式は無効です。多くの場合、埋め込みアプリケーション サーバーのポートは 9080 です。サーバー名の代わりに IP アドレスを使用できます。

ユーザー名とパスワードは大文字と小文字が区別されます。

ログイン情報は保存され、エクスポート プロセス中に使用されます。

選択した内容が [割り当て済みエクスポート コネクタ] リストに移動し、[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0] ウィンドウが表示されます。
7. セットアップ ウィンドウで、各タブの設定を構成します。個々の設定の詳細については、任意のタブの [ヘルプ] をクリックしてください。
8. セットアップ ウィンドウが完了した後に、[OK] をクリックします。  
情報メッセージには、設定とカスタム プロパティに対する変更のリストが表示されます。
9. [OK] をクリックして、情報メッセージをクリアします。

## Kofax TotalAgility を使用したエクスポート コネクタのインストールと設定

この手順を使用して、Kofax TotalAgility で使用する Documentum エクスポート コネクタをインストールし、セットアップします。

**i** 手順を開始する前に、Kofax TotalAgility でエクスポート アクティビティを含むプロセスが作成されていることを確認してください。エクスポート コネクタは、プロセス内のドキュメント タイプに関連付けられます。

1. [Kofax TotalAgility] プログラム フォルダで、[Kofax エクスポート コネクタ] を選択します。  
[Kofax TotalAgility エクスポート コネクタの構成] ユーティリティが表示されます。
2. [エクスポート コネクタの構成] 画面で、[管理] をクリックします。
3. [エクスポート コネクタ - 管理] 画面で、[追加] アイコンをクリックして新しいエクスポート コネクタを追加します。  
[エクスポート コネクタ - 追加] ウィンドウが表示されます。!
4. Documentum のインストール ファイルに移動し、[setup.msi] を選択してから、[開く] をクリックします。

エクスポート コネクタのインストーラが表示されます。

5. インストーラを実行します。
6. Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0 が **[Kofax エクスポート コネクタ - 管理]** 画面に表示されていることを確認し、**[閉じる]** をクリックします。
7. **[エクスポート コネクタの構成]** 画面で、**[セットアップ]** をクリックします。
8. **[エクスポート コネクタ - セットアップ]** 画面で、ドキュメント タイプを Documentum Server にエクスポートするために使用するプロセスを選択します。
9. 選択したプロセスに関連付けるドキュメント タイプを選択し、**[追加]** をクリックします。
10. **[コネクタ]** をクリックします。  
**[エクスポート コネクタ - ドキュメント タイプ]** 画面が表示されます。
11. **[使用可能なエクスポート コネクタ]** リストで、ドキュメント タイプに割り当てるエクスポート コネクタとして **[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0]** を選択し、**[追加]** をクリックします。  
Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ ログイン画面が表示されます。
12. DFS Web サービスがインストールされているサーバーのサイト URL と、ユーザー名、パスワード、およびリポジトリ名を入力します。  
サイト URL の例:  
`http://servername:port/dfs`  
`http://servername:port/my-dfs-71`  
servername:port などの他の形式は無効です。多くの場合、埋め込みアプリケーション サーバーのポートは 9080 です。サーバー名の代わりに IP アドレスを使用できます。  
ユーザー名とパスワードは大文字と小文字が区別されます。  
ログイン情報は保存され、エクスポート プロセス中に使用されます。  
選択した内容が **[割り当て済みエクスポート コネクタ]** リストに移動し、**[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0]** ウィンドウが表示されます。
13. セットアップ ウィンドウで、各タブの設定を構成します。個々の設定の詳細については、任意のタブの **[ヘルプ]** をクリックしてください。
14. セットアップ ウィンドウが完了した後に、**[OK]** をクリックします。  
情報メッセージには、設定とカスタム プロパティに対する変更のリストが表示されます。
15. **[OK]** をクリックして、情報メッセージをクリアします。

## Kofax Express を使用したエクスポート コネクタの設定

この手順を使用して、Kofax Express で使用するエクスポート コネクタをセットアップします。

1. Kofax Express を起動します。
2. **[ジョブ設定]** タブの **[エクスポート]** グループの **[コネクタ]** リストで、**[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0]** をクリックします。
3. セットアップ ツールをクリックします。  
ログイン ウィンドウが表示されます。

4. DFS Web サービスがインストールされているサーバーのサイト URL と、ユーザー名、パスワード、およびリポジトリ名を入力します。

サイト URL の例:

```
http://servername:port/dfs  
http://servername:port/my-dfs-71
```

servername:port などの他の形式は無効です。多くの場合、埋め込みアプリケーションサーバーのポートは 9080 です。サーバー名の代わりに IP アドレスを使用できます。

ユーザー名とパスワードは大文字と小文字が区別されます。

ログイン情報は保存され、エクスポート プロセス中に使用されます。

**[Documentum Content Server 用 Kofax エクスポート コネクタ 8.2.0]** ウィンドウが表示されます。

5. セットアップ ウィンドウで、各タブの設定を構成します。個々の設定の詳細については、任意のタブの [ヘルプ] をクリックしてください。
6. セットアップ ウィンドウが完了した後に、[OK] をクリックします。  
情報メッセージには、設定とカスタム プロパティに対する変更のリストが表示されます。
7. [OK] をクリックして、情報メッセージをクリアします。

## eDocument のエクスポート

次のセクションでは、指定したキャビネット、フォルダ、またはバーチャル ドキュメントなどの保管場所に基づいて、eDocument を Documentum Server リポジトリにエクスポートする方法について説明します。

### キャビネット/フォルダへの保存

エクスポートするドキュメントに eDocument が含まれていて、[ストレージ設定] タブで [バーチャル ドキュメントに保存] が選択されていない場合は、次のようにになります。

1. 各イメージはドキュメント オブジェクトにエクスポートされます。イメージは、同じイメージ コンテンツ タイプ(ファイル形式)を使用して Documentum Server に保存されます。ドキュメント オブジェクトには、[ドキュメント設定] タブで指定されたドキュメントの名前(object\_name)が付けられます。
2. 前の手順のドキュメント オブジェクトと同じ名前のバーチャル ドキュメントの有無を確認するためのチェックが実行されます。
  - このバーチャル ドキュメントが存在する場合は、チェックアウトされ、バージョン管理され、Documentum Server リポジトリにチェックインされます。
  - 存在しない場合は、ドキュメント オブジェクトがバーチャル ドキュメントに変換され、ドキュメント オブジェクトと同じ名前が付けられます。
3. eDocument は、インポートされた順序でドキュメント オブジェクトに追加されます。ドキュメント オブジェクトは、それぞれのバーチャル ドキュメント内に保存されます。各ドキュメント オブジェクト名は、Kofax Capture によって提供されるファイル名と拡張子に基づいています。また、

すべての eDocument は、エクスポートされるファイルに対して Documentum Server によって提案された形式名を使用してエクスポートされます。

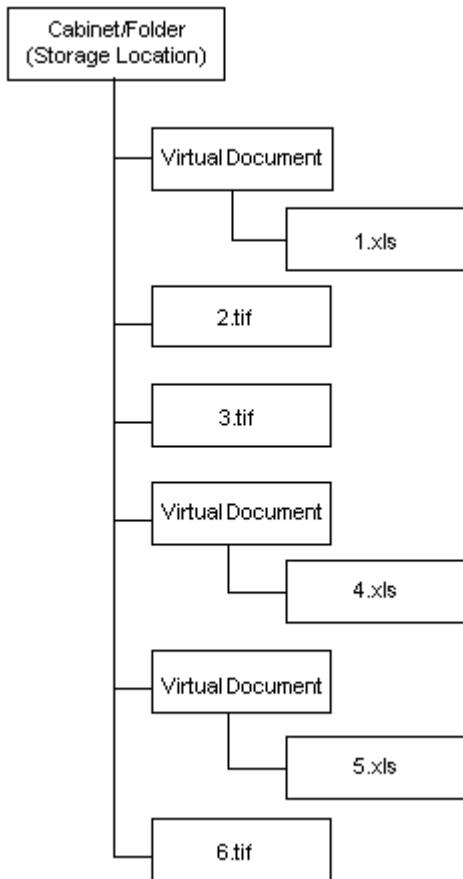
たとえば、Microsoft Word ドキュメントには、「Word 文書」という提案された形式名が付けられます。このドキュメントを Documentum Server デスクトップ クライアントで表示すると、Word ドキュメント オブジェクトの形式名属性の値は「Word 文書」になります。さらに、ドキュメントをダブルクリックして Microsoft Word で表示することもできます。

#### 例

次のリストを検討してください。このリストには、スキャンされる、または指定したキャビネットまたはフォルダにインポートされる単一ページのイメージと eDocument ファイルが含まれています。eDocuments にはインポートのみが行われることに注意してください。

- 1.** .xls
- 2.** .tif
- 3.** .tif
- 4.** .xls
- 5.** .xls
- 6.** .tif

この場合、Documentum Server リポジトリの構造は次の図のようになります。



### キャビネット/フォルダへの保存

## バーチャル ドキュメントへの保存

エクスポートするドキュメントに eDocument が含まれていて、[ストレージ設定] タブで [バーチャル ドキュメントに保存] が選択されている場合は、次のようにになります。

1. [ストレージ設定] タブで指定されたバーチャル ドキュメントは、チェックアウトされ、バージョン管理され、Documentum Server リポジトリにチェックインされます。
2. 利用可能なイメージがある場合は、それそれが新しく作成されたドキュメント オブジェクトに追加されます。イメージは、同じイメージコンテンツ タイプ(ファイル形式)を使用して保存されます。ドキュメント オブジェクトには、[ドキュメント設定] タブで指定されたドキュメントの名前 (object\_name) が付けられます。ドキュメント オブジェクトはバーチャル ドキュメントに変換され、ドキュメント オブジェクトと同じ名前が付けられます。
3. 使用できるイメージがない場合は、eDocuments を含むバーチャル ドキュメントが作成されます(次の手順を参照)。バーチャル ドキュメントには、[ドキュメント設定] タブで指定されたドキュメントの名前 (object\_name) が付けられます。
4. eDocument は、インポートされた順序で、新しく作成されたドキュメント オブジェクトに追加されます。ドキュメント オブジェクトは、それぞれのバーチャル ドキュメント内に保存されます。

各ドキュメント オブジェクトは、Kofax Capture によって提供されるファイル名と拡張子に基づいて名前が付けられます。また、すべての eDocument は、エクスポートされるファイルに対して Documentum Server によって提案された形式名を使用してエクスポートされます。

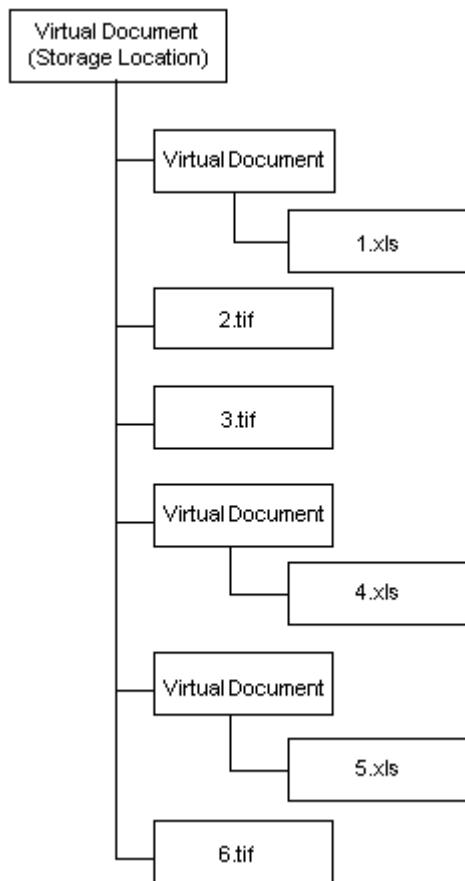
5. 新しく作成されたバーチャル ドキュメント (手順 2 または 3 で作成) は、[ストレージ設定] タブで指定されたバーチャル ドキュメントの保管場所に追加されます。

**例:**

次のリストを検討してください。このリストには、スキャンされる、またはドキュメントにインポートされる単一ページのイメージと eDocument ファイルが含まれています。eDocuments にはインポートのみが行われることに注意してください。

1. .xls
2. .tif
3. .tif
4. .xls
5. .xls
6. .tif

この場合、Documentum Server リポジトリの構造は次の図のようになります。



### バーチャル ドキュメントへの保存

## eDocument のみのエクスポート (イメージ ファイルは含まない)

[電子ドキュメントのみが存在し、イメージ ファイルが検出されない場合は、最初の電子ドキュメントをプライマリ ドキュメントとして処理] チェック ボックスが [イメージ フォーマット] タブに追加されました。このチェック ボックスをオンにすると、eDocument はプライマリ ドキュメントとして処理されます。このオプションがオフの場合、eDocument はレンディション ファイルではなくバーチャル ドキュメントとして送信されます。レンディション ファイルとしてエクスポートできるのは、OCR ファイルのみです。

## Kofax Capture OCR Full Text オプション

OCR Full Text ファイルをエクスポートするには、該当するドキュメント クラスで Kofax Capture OCR Full Text 処理を有効にし、OCR Full Text モジュールを該当するバッチ クラスのワークフローに追加する必要があります。

## サポートされていない Kofax Capture 機能

次の Kofax Capture 機能は、このエクスポート コネクタではサポートされていません。

### SecurityBoost

SecurityBoost 機能は、Kofax Capture のセキュリティを強化するために使用されます。セキュリティが問題になる場合は、保護されたコンピュータでエクスポート コネクタを実行します。

Kofax Capture で SecurityBoost 機能が有効になっている場合は、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のように入力して、この機能をバイパスする必要があります。

```
Release.exe /NoBoost
```

例:

```
"C:\Program Files (x86)\Kofax\CaptureSS\ServLib\Bin\Release.exe" /NoBoost
```

### ファイル名の保持

ファイル名の保持はサポートされていません。つまり、オリジナルのインポートされたファイル名は保持されず、エクスポートされたファイルにはデフォルトの数値の名前が使用されます。

**i** Kofax 値「{最初のページのオリジナル ファイル名}」を使用して、ドキュメントの最初のページのオリジナルのファイル名を保持します。この値は、Kofax の値をサポートする Documentum Server プロパティにリンクできます。Documentum Server プロパティ タイプは、オリジナルのファイル名に含まれているすべての文字を使用できること、および定義された長さ以内であることという条件を満たす必要があります。この条件が満たされない場合、エクスポートは失敗する可能性があります。